

## 第4章 呑川沿いの植物

### 1. 緑道沿いの樹木(大田区エリア)

呑川緑道は大田区中央部をほぼ東西に横断するの川沿いの道路です。この緑道は目黒区(工大橋)から河口(大森南五丁目)まで約9kmを位置づけています。緑道には樹木や野草が多く見られ、四季通して人々を和ませてくれます。緑道で多く見られる「街路樹」は桜ですが、クス、ハナミズキ、サルスベリ等もあります。また呑川沿いの公園や民地を含め魅力的な樹木が見られます。現在、呑川上流から下流まで約200本ほどの桜が見られ、種類はオオシマザクラ、ソメイヨシノ、ヤマザクラ、八重紅シダレザクラが見られます。石川台中学校付近の両岸には桜並木があり川を覆っています。2017(平成29)年に整備された弾正橋付近にはジンダイアケボノザクラが植えられました。街路樹の成長に伴い維持管理も大事です。区では老朽化した樹木を年に4~5本は更新されています。



「呑川の桜並木・雪の橋付近」

以下特徴的な樹木をリストアップします。(○は民地の樹木を示す)

- \* 工大橋(目黒区公園)にはクロガネモチやサンシュユがあり、初冬には赤い実をつけます。
- \* 「境橋まちかど公園」にはスダジイ、ツバキが見られます。
- \* 境橋左岸の「上呑川児童公園」にはアオギリの高木やシダレザクラ、ムクノキが見られます。
- 鈴木家(保護樹林)はケヤキ、青桐、ウメ、モミジ、夏ミカンなど高木も見られます。
- \* 「石川公園」にはトウカエデ(紅葉が綺麗)、クス、スダジイ、マテバシイほか多くの樹種が見られます。
- \* 「石川町二丁目第2児童公園」はエノキ、ケヤキ、ムクなどの高木のある公園です。
- \* 島本橋、右岸「しばざくら・きんたろう児童公園」には、キリの老木が見事な花をつけ、またエンジュ、トキワマサク、クス、モッコクなどが見られます。



- \* 石川橋～柳橋「清流復活の碑広場」のシダレヤナギは、シンボリックな姿(樹高約7m)を見せています。  
イロハ モミジ、クチナシ、もあります。
- \* 宮前橋右岸には八重シダレザクラとネムノキが見られ、ネムノキは四季咲と言われ花が長く見られます。
- 居村橋近くの「ニチレイ研修センター」には、ヒツバタゴ(ナンジャモンジャの木)が植えられています。
- 道々橋右岸の「樹林寺」は大きなシダレザクラやコブシ、ムクゲ、また樹齢あるケヤキが目立ちます。
- \*「久が原久根児童公園」にはクロガネモチ、ソメイヨシノ、モッコク、  
ウメ、エゴノキ、アラカシが見られます。
- \*「久が原二丁目広場」にはシイノキ、ヤマザクラ、コナラ、クロマツ、  
イヌシデ、カキの木が見られます。

「(石川橋)・清流復活の碑広場」



「八重紅枝垂れ桜・山下橋右岸」



「ヒツバタゴ(なんじゃもんじゃ)の花・居村橋」

- \*「仲池上児童公園」がありソメイヨシノ、ユリノキ、梅、ケヤキ、カイズカイクキ、マテバシイが見られます。
- \*根方橋右岸にある「ケヤキ広場」には樹形がほうき型のケヤキ、藤棚、クス、オオバイが見られます。
- \*「仲池上二丁目29番広場」にはソメイヨシノ、シダレザクラ、ウメ、カナメモチが見られます。
- \*「仲池上二丁目30番広場」に竹林(ササ竹)、ハクモクレン、ゲッケイジュが見られます。
- 「照栄院」にはウバメガシ、タラヨウが立派です。早咲きのカワズザクラ、普賢象桜、ヤマザクラなど多くの種類の桜が見られます。シダレザクラは多くのカメラマンが集まります。
- \*堤方橋の上流部、下流部、左岸にはサルスベリと、八重桜が交互に植えられ春夏花が楽しめます。
- \*日蓮橋左岸(池上第二小学校脇)にはキンモクセイが香豊かです、またソメイヨシノが植えられています。
- \*「西蒲田太平橋児童公園」にはプラタナス、カイズカイクキ、紅梅が見られます。

- \* 菖蒲橋右岸にはクスの並木があります。(楠は大田区の木)
  - \* 仲之橋(蒲田)下流右岸には桜並木(ソメイヨシノ)があります。
  - \* 「夫婦橋公園」にはソメイヨシノ、イトヒバ、モッコク、ハナミズキ、マテバシイなど樹木が多いです。護岸は船着き場となっています。
  - 天神橋、右岸の「北野神社」は梅林があり、早春の香りにメジロも集まります。
  - \* 清水橋、右岸には早春にコブシの花が見られます。
  - \* 「東蒲中学校」には呑川沿いにメタセコイアが植えられています。
  - 赤い八幡橋(糞谷)左岸の「子安八幡神社」(糞谷)には古木が多く、イチヨウ、タブノ木、エノキ、ケヤキなどが大田区指定の保護樹木になっています。
  - \* 「大森南一丁目公園」にはクス、アキニレ、ハナモモ、コブシがあり、護岸は船着き場になっています。
  - \* 藤兵衛橋、左岸には「桜梅公園」があり、ソメイヨシノ、オオシマザクラ、白梅、紅梅、クロマツ他種類が多く見られます。
  - \* 旭橋、左岸遊歩道には桜並木(ソメイヨシノ)があります。  
緑道並木の根元にはサツキ、レンゲツツジ、クチナシ、ドウダンツツジ、シャリンバイなどの低木が整備されています。
- 呑川沿いの民地には、見事な枝ぶりのケヤキやムクノ木の古木が見られましたが、宅地開発等で年々消滅してしまい残念です。呑川の桜並木は最近ソメイヨシノが虫害にあい、毎年4～5本更新されています。

## 2. 護岸の植物

### ① 護岸の上部に生える植物

護岸上部には10～80cm幅の植栽帯を設けた部分と、植栽帯ない部分が在ります。土壌のない部分(コンクリートやアスファルトの隙間)でも多くの小低木・野草が成長しています。付近の皆様が護岸の上部(10cm)を活用して、草花を栽培して下さっている場所も見られます。また護岸に生える小低木、野草は自然に生えた(野鳥が種を運んだ?)ものですが、植物の多様性があり昆虫や野鳥が集まります。しかし、それらは緑道管理上定期的に摘み取られることがあります。

樹木はある程度根が残っているため、春には芽を出し2m程度まで成長します。霊山橋～日蓮橋の兩岸を調べると、アカメカシワ、エノキ、ヤマグワ、ナンキンハゼ、ヒメコウゾ、ムクゲ、イエウルシ、シマトネリコなどが見られました。久崎橋、右岸にはオレンジ色の実のピラカンサの大木も見られます。

流域全体で見られる野草(雑草)の種類は多く(約300種位か?)、毎年見られる種類(多年草)や毎年見られない野草もあります。特に妙見橋～堤方橋～上堰橋の間(640m)と一ノ橋児童遊園は、植物の種類も多く都会では珍しくなったショッカサイ、ナデシコ、コスモス、また園芸種なども見られます。



2018(平成30)年の緑化工事で、上流部(工大橋左岸)には、従来のツタに変えてクラビア(岩垂草)が植栽されました。2019(平成31)年の緑化工事・芹ヶ谷橋～八幡橋(仲池上)では、幅10cm～80cm延べ330mの植栽帯が整備され、そこにはサツキ、芝桜、オタフク南天、ヤブラン、ヒメニチニチソウが植えられ順調に生長

しています。

### 「ヤナギバルイラソウ」

#### ② 護岸の壁面に生える植物

護岸の緑化で多く採用されているのは、ヘデラ(和名キツア・別名フユ葛)です。常緑で一部紅葉も見られます。護岸の(コンクリート面)一部は夏季西日を受け蓄熱しますが、ヘデラによりヒートアイランドを低減する効



果があります。またヘデラは茎が下に伸びる性質があり、維持管理も容易とされています。壁面を覆う植物で(妙見橋～浄国橋)はツルドクダミが繁茂しています。昔中国から薬草として導入されたと文献に在りますが繁殖力が強く他の植物を枯らしてしまふ。

妙見橋・左岸にはエビツルが壁面を覆っています。根元は太く数十年は経っていると思われまふ。

護岸のジョイントや排水パイプにも多くの植物が見られます。イチジク、キウイ、シダ、ペラペラヨメナ、コムラサキ、カヤツリグサなどですが、どうしてこの場所に生育したかと不思議に思いまふ。

### 「ペラペラヨメナ」

#### ③ 河床に生える植物

呑川上流部(工大橋～境橋・新幹線まで)の河床には目立つ植生は見られませんが、藻が増殖するため定期的に清掃がなされています。

新幹線より下流部では環境対策として護岸工事でツルヨシが両岸に植えられました。一時期(1997年頃)仲之橋～根方橋(静水域)で河床に植生を試みましたが、洪水で流されました。それ以降ツルヨシはネットで固定され現在は成長しています。最近ではツルヨシの他カヤツリグサ、カサスゲ、カラシナ、ギンギシ、セキショウ、ヤナギバルイラソウなど種類も増えています。

池上橋より下流部(汽水域)は犬走りに一部植生(スゲ、カヤツリグサ)が見られた。稲荷橋左岸には(コガマ)が見られましたが、河川清掃で除去されました。

#### 3. 蔓性植物について

呑川の野草で目立つのは蔓性植物が多く見られることです。植物は光を求めて成長します。蔓性植物は自分では立てないため、さまざまな手段で伸びていきます。ある種は蔓で巻き付き、巻きひげでからめたり、棘で引っ搔けたりそれぞれ个性的手段が見られます。園芸種が逃げ出した種類も見られますがリストを挙げて見ました。(別紙参照)

◎呑川で見られる蔓性植物、( )内は植物が見られた付近の橋を示す。



ヘデラ(東 橋)



ツルドクダミ(養源寺橋)



ウマノスズクサ(谷中橋)



ノサガオ(鷹ノ橋)



ヘクソカズラ(山下橋)



ツルニチニチソウ(八幡橋)



エビツル(養源寺橋)



モミジバルコウソウ(根方橋)



ヒヨドリジョウゴ(島畑橋)



キカラスウリ(菖蒲橋)



クラビア(工大橋)



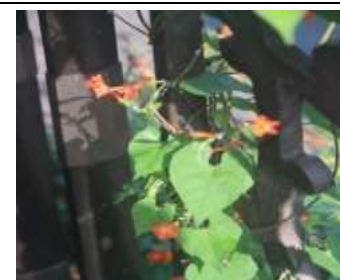
アサガオ(山下橋)



ナワシロイチゴ(菖蒲橋)



ヒルガオ(山下橋)



マルバルコウ(養源寺橋)

#### 4. 緑道沿いの樹木(世田谷区・目黒区エリア)

「呑川緑道」は工大橋から源流地域である世田谷区桜新町まで続きます。呑川本流緑道や支流(駒沢流れ、柿木坂流れ、九品仏流れ)など、かつて、36答申(1961年)により川が下水道幹線となり、蓋がけされたあと、呑川では車の通れない遊歩道として人々に親しまれています。しかし時間が経てば「ここが川だったと」知る人も少なくなるため、世田谷区の一部には住民の要望や行政の努力で呑川が復元されました。約870m(国道246号から駒沢通り日本体育大学)の復元水路は水を循環させていて。水路には自然河川のように水草も植えられ、カルガモも泳いでいます。桜は両サイドに植えられています。



「目黒区・呑川緑道」

目黒区の緑道の一部は遊歩道が側道より50cm程度高くなっていて桜並木、小低木(ツツジ、ツゲ、カナメモチなど)が植えられています。

工大橋から上流(東京工業大学脇)にはソメイシノの外多くの樹木が整備されています。

\*カリン、ハクウンボク、ザクロ、キンモクセイ、サルスベリ、ヤマボウシ、カクレミノ、クロガネモチ、ムクゲ、が見られます。

#### (注)・参考図書

- ・「都市の樹木 433」 著者 岩崎 哲也 発行所 (株)文一総合出版
- ・「雑草や野草がよーくわかる本」 著者 岩槻 秀明 発行所 (株)秀和システム
- ・「草花さんぽ図鑑」 監修者 NPO 法人自然観察大学 発行所 (株)永岡書店

## 「コラム」・・・みどりの保護について・・・

### (大田区の事例)

大田区では平成23年3月に大田区緑の基本計画「グリーンプランおおた」を策定し、みどりあふれる未来CITYおおたを目指したみどりの街づくりに取り組んでいます。呑川沿い（緑道軸）の樹木等は大切なみどりです。最近まで呑川沿いには、川の上空を覆うようなケヤキやエノキの高木が多く見られましたが、宅地開発等で減少してしまい残念です。「呑川緑道軸」は大切なみどりです。大田区では区内に残された貴重な樹木や緑地を保護していくため、一定の基準以上のみどりを保護樹木・保護樹林・保護緑地として指定し、「管理経費、剪定経費等の助成」を行っています。この制度を多くの区民に知らせ活用することが大事だと思います。



保護樹木・ケヤキ



保護生け垣



島畑橋左岸・保護樹林

### (目黒区の事例)

地域のシンボルとなっている公園等の桜の保全活動に取り組まれている。目黒川や呑川緑道ほか多くの桜並木が見られます。目黒の桜を後世に伝えるため平成25年度に「目黒サクラ基金」を設立しています。これは寄付金を積み立て、桜の保護、植え替え等の事業に活用する目的です。(令和2年度実績：樹木診断、桜保全工事、費用4,941千円)

### (世田谷区の事例)

みどり豊かな世田谷の実現のため、特別保護区や保存樹木、雨水浸透、緑化基準など、みどりの保全と創出に関して条例「みどりの基本条例」が定められている。

区では、そのまま放置しておけば住宅などの開発によって失われてしまう緑豊かな場所を、区の条例で「特別保護区」に指定して、自然環境の保全に努められている。現在：深沢八丁目無原罪、経堂五丁目、神明の森みつ池、烏山弁天池の四カ所が特別保護区に指定されている。



「世田谷区・深沢八丁目 無原罪聖母宣教女会（定期的に一般開放される）」

## 「コラム」・・・呑川の護岸に「ど根性イチジク」？

呑川の護岸には、排水管や水抜きパイプなど設置されています。また「ジョイント部分」には植物が生えているところも多く見受けられます。今まで見られた護岸の自生植物はトマト、イチジク、キウイ、(野草)はシダ、ムラサキシキブ、ヨメナなどです。

今回の紹介したいのは東雪谷、谷中橋・左岸に見られる「イチジクの仲間」ですが、垂直の壁面にどのようにして生えて来たのか推理してみました。また一度伐採されながら再度成長した「ど根性イチジク」です。



(鶴林橋)従来・イチジク



(若宮橋)ムラサキシキブ



(霊山橋)ペラペラヨメナ

「ど根性イチジク」が生えている場所は、雨水排水が下水道に繋がり護岸にあった「開口部が埋められた跡」の隙間からです。植物が育つためには土壌、水、日射が必要ですが最低限の環境でも育ってきたと思います。またこの種は日本では珍しい種類です。種子はどこから来たのでしょうか？日本で栽培されていない種類であり、野鳥が種子を運んだか、洪水時に上流から流されて来たか、排水管に紛れていたか等、謎です。・・・可能性として「乾燥果実」の一部がどこかで排水にこぼれ、流れてきて発芽したのではと、推理してみました・・・？



A 谷中橋、2019,7,2 の状態



B 谷中橋、2020,1,23 伐採された状態



C 谷中橋、2021,9,14 の状態

「イチジク類」はトルコ(世界の生産国)やアフガニスタンでも栽培されドライフルーツとして日本に輸入されています。この谷中橋に生える「ど根性イチジク」は最初、同定できずいましたが、植物に詳しい方から「アフガニスタンイチジク」ではないかと連絡を戴きました。またある種のドライフルーツから芽が出たとの話も聞きました。

イチジクはアラビア半島が原産で地中海沿岸では6000年以上前から栽培され、古来「不老不死の果物」として人類が育てて食していた果物です。日本には江戸時代、中国から渡来したとあります。

「ど根性イチジク」は去年の暮、護岸の根元から伐採され(写真B)絶えてしまったと思っておりましたが、一部根が残っていたため今年また芽が出て去年と同じくらいまで(写真C)に成長してきました。

まさに復活の植物、ど根性イチジクです。いずれ小さな実を付けてくれると期待しています。秋にはどんな野鳥が食べに集まるか楽しみです。イチジクの花は実の中に隠れて咲くという変わった仕組みです。(無花果)、落葉樹で耐寒性に弱い呑川の護岸でまた成長するでしょうか。